

平成 21 年度 あいち農地・水・環境保全向上対策委員会議事録

開催日：平成 22 年 3 月 18 日(木)

場 所：三の丸庁舎 B203 会議室

< 議 事 >

【説明】

農地・水・環境保全向上対策事業 中間評価について

(委員)

大変なアンケート調査ご苦労様でした。農地・水・環境保全向上対策事業の効果・関心が高まっているということで、すばらしいと感じ、感銘を受けました。

この結果、問題点も浮き彫りになっていると思います。そのような問題点を中間とりまとめで報告していただいて、今後の事業継続につなげていっていただきたいと思います。

初年度から中間段階に至るまでは、かなり試行錯誤があったと思いますが、ブラッシュアップしていただき、よりよい事業にすることが重要になってくると思います。

特に後継者不足の問題、環境保全型農業に対する取組などいろいろな課題が山積していますが、上手に解消できるようにしていただきたい。

国内農業が苦しんでいる状況の 1 つに、農産物の品質が評価をされておらず収益につながっていないことがあります。これが後継者を苦しめていると感じています。良い取組を行っていることをできるだけアピールして国内農業の振興、農家の収益確保につなげるのが重要だと思います。

環境に対する取組を行うことにより地域で生産される農産物のブランドイメージを向上させ、農協等の販売網やネット販売などを確立して海外などの輸入野菜に対抗して収益を確保することが重要であると感じます。

そのような取組に対する予算を考えることも重要だと思います。

生産現場だけでなく、経営・販売も組み合わせて行っていくことが重要ではないでしょうか。

また、地域の活性化も大きな問題になってきます。地域リーダーの不在が取り上げられています。農村地域でどのように育成するのか、混住化地域・過疎地域でどのように育成するのかを考えていくことが重要であると思います。混住化地域では例えば非農家にリーダーになっていただくとか、過疎地域では例えばオーナー制度を導入して地域の活性化につなげている方にリーダーになっていただくとか。

多面的な課題が多いと思いますが前向きに検討していただきたい。

(委員)

本事業は効果があるという回答が多いことがわかりました。事務の簡素化が1つのテーマであると思います。事務の簡素化を図ることにより、交付金がしっかりと管理されなくなることが心配にもなってくる。しかし、活動組織等からは事務量が多いとの意見もある。相反することになるため、表現が難しくなってくると思います。

(委員)

生態系保全活動と景観形成保全活動について、生態系と景観形成は、別々に見るとそれぞれですばらしい活動であると思いますが、よく考えてみるとそれは相反するものであると思います。単一品種で植栽をすることにより、景観はすばらしくなりますが、一方で多様性とは言い難くなります。単一品種であったり、カバープランツで田んぼの周辺は景観的にすばしくなりますが、生態系から見れば多様性を失ったこととなります。この活動は地域の関心が非常に高く、多くの子どもを巻き込んで活動を進めていくと思います。畦には畦に必要な植物があります。彼岸花の根っこはモグラがいやがるなど、昔からある植物などが農村景観・農村環境の生物多様性が保たれると思います。園芸品種で道路沿いの景観が保たれるのも良いことではあると思いますが、もう一方で必要な場所の必要な多様性の対策も組み込んでいただいて、地域の方々へ助言しながら進めていただけたらと感じました。

(委員)

農地・水・環境保全向上対策事業の評判を農家の方々等に聞いたらすごく良いという評判でした。外へ働きに行く人の顔も見えない、声も聞こえない状況であったものが、できるようになり地域のまとまりがでてきたとの意見もありました。

道の駅の現金収入があり、農家が少し潤ってきています。地産地消を考え、多品種の作付けをするようになっています。そのため、耕作放棄地に新たな作付けをしているというケースもあります。周りが保全されているため、耕作放棄地にも手を出しやすくなったという意見もあり、本事業の効果を実感しています。

また、環境も整ってきており、鳥類・魚類等が戻ってきたという話も聞きました。

学校で取り組んでいるというところが数カ所ありますが、学校全体として取り組んでいただければ、後継者の問題等も解消しやすくなるのではないかと感じました。学校全体で取組を行ったところへ重点的にアンケートを取ればもっと効果が顕著に表れるのではないかと思います。

アンケートの回収率が100%とはすばらしいことである。1回ではなかなか出してもらえないため、足繁く通われた努力が評価できます。

(委員)

リーダーの育成等が改善できるように努力してください。

(委員)

事務の軽減は大切であると思います。現場段階での事務は大変であることが理解できません。

要件の緩和について、このような事業を推進するためには緩和していくことも大切ですが、緩和しすぎてしまうと交付金の使途に問題が出てくる可能性があり、それにより事務量が増加することも考えられます。そのように考えると相反することにはなりますが、どちらの要望も課題には入れておくべきことだと思います。

また、課題には述べられていないのですが、農産物をうまく販売ルートに乗せることも重要であると感じます。この施策だけでは片手落ちになってしまいますので、販売網等の整備などの施策も重要であると思います。

リーダーの計画的な育成について、具体的にどのようなことを考えているのかお聞かせ願いたい。

(事務局)

具体的な内容はなかなか難しいところがあります。学校連携では親子で参加していただき、若い世代に働きかけを行う予定です。地域協議会から活動組織に対して若い世代が参加できるような取組を行えるようにしていただくよう働きかけを行う予定です。

また、国が行うリーダー研修等にも若い世代に参加していただくよう働きかけを行う予定です。

(委員)

施策的や予算的なことを要望しなくてもよいですか。これを考えて要望を上げた方がよいと思いますので、ご検討をよろしくお願いします。

(事務局)

検討します。

(委員)

次期対策について、未実施市町村への「普及」は少し厳しい言い方ではないか。「啓発」という表現を用いた方がよいと思います。

(委員)

生態系保全と環境保全の相反するものの調整についての一文を評価に入れていただきたいと思います。

(委員)

農業は後継者がいないという課題があります。サラリーマンの子どもと農家の子どもでは農業への関わり合いが全然違うと思います。脱サラ等による成功例はよく取り上げられていますが、非常に難しいのが現実です。また、現場段階では農業外から参入してくる方に農業を教えることが非常に大変です。

(委員)

修正した内容を来年度6月開催予定の委員会で再説明する形でお願いしたいと思います。

7割の活動組織が継続を要望しているという結果でした。初めてのことは経験上失敗することが多くありますが、本事業に参加してくださった方々は好感を持ってアンケートに答えています。ところどころアンケートに矛盾はあるとは思いますが、これは良くしてくれたのでいように答えたいという思いによるものだと思います。